

情報公開 市民参加 市民派無所属
府中市議会議員

ゆうきりょう

市政
通信



毎日ブログ更新中

結城りょう



新型コロナウイルス感染拡大の第三波へ・・・「人々の個人の努力に頼るステージは過ぎた」、府中市は新型コロナ対策に当事者意識を持って危機感を共有し、主体的に施策を講じるべき

新型コロナの恐怖から市民に安心感を与えるのが行政の責任・・・12月議会一般質問

新型コロナウイルスの感染拡大の第三波が到来し、今こそ行政の責任が問われています。11月27日の衆議院厚生労働委員会で、参考人の尾身茂氏は新型コロナの感染防止対策について「人々の個人の努力に頼るステージは過ぎた」と述べ、国、自治体に対して「当事者意識を持って危機感を共有することが極めて重要だ」とし、政府や自治体の対策を強化すべきとの認識を示しています。

私も同じ問題意識から12月議会の一般質問において、新型コロナの感染拡大から市民の命を守るために、市民生活を守るべき最前線に立つ府中市の役割について5つの角度から質しました。

☆質問1⇒府中市として都の保健所からデータを借用して、市独自にコロナ感染者の情報分析をすることを求める。自治体として新型コロナ感染拡大を防止していく、市民の命を守るという観点から必要な措置であると思うが、市の考えは。

★市の答弁⇒都からの情報提供もなく、市としてそうした予定はない。

◎ゆうきの主張⇒疫学的データ裏付けなしに、新型コロナ対策という重要な課題について、市として必要な対策を講じることができるのだろうかと思ふ。甚だ不安になる。新型コロナウイルス感染症に対する有効な施策の立案ができるのか不安だ。

☆質問2⇒府中市としても独自の発熱外来設置を検討すべきでないか。

★市の答弁⇒年末年始期間は休日夜間診療で医師会と協力して発熱外来を設けます。

PCR検査を実施する医療機関を公表してほしい

☆質問3⇒府中医師会にもご協力いただき医師会のHP、市のHPで新型コロナのPCR検査をしている医療機関の公表に市として努力できないか。

★市の答弁⇒医師会には市民からの要望として伝えます。

◎ゆうきの主張⇒墨田区や調布市では自治体のホームページで公表している。また武蔵野医師会のホームページでも公表している。府中市もぜひ実施し

てほしい。

府中市は医療に知見をもつ府中医師会との緊密な協力、連携、協力関係を構築してほしい

☆質問4⇒府中医師会に医療専門家としての知見をいかして、行政サイドに対する詳細なアドバイス、ご協力をいただくよう、府中市の新型コロナ対策本部会議には毎回出席してもらい、全面的かつ強力な支援をいただけないものか。

★市の答弁⇒必要に応じて医師会には対策本部会議に出席していただいています。

◎ゆうきの主張⇒市民の命がかかる新型コロナ対策会議には、ぜひ医師会に毎回出席いただき、市との緊密、良好な連携を構築してほしい。

☆質問5⇒65歳以上の高齢者を対象に、症状がなくても、希望すれば唾液によるPCR検査を無料で受けられる取り組みを行うことを検討いただけないか。民間の検査機関を利用することで費用を抑えることもできます。見解を伺います。

★市の答弁⇒現在、実施の予定はない。

◎ゆうきの主張⇒9月に市内の介護老人保健施設でクラスターが発生したが、新型コロナの重症化が確認されるなど感染が再拡大する中、重症化するおそれが高い高齢者は感染のリスクを避けるため、自治会や地域でのボランティア活動への参加を控えるケースが少なくない。高齢者への安心のためにも検討を。

◎全体の質疑を通じてのゆうきの結論⇒市民の命を守る最前線である府中市の健康保健行政としては、市独自の主体性が希薄に感じられたことは残念だ。市民は府中市の新型コロナから命、健康を守ろうとする行政の姿勢、責任ある姿を見ている。府中市に新型コロナ対策への緊張感、主体性ある保健行政を強く求めたい。

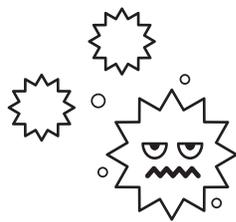
府中市では新型コロナ経済対策として中小、小規模事業所向け経営支援策を補正予算(令和2年12月議会)で組みます

府中市では12月議会に補正予算案のなかに商工業振興費の「小規模事業者販路開拓支援事業費」として、小規模事業者の販路開拓や業務効率化の取り組みを支援する補助金（補助率は3分の2、上限30万円）において、申請者の増加にともない増額するものです。

2つめは「中小企業等経営持続支援事業費」で、市内事業者の経営事業の継続を支えるために、売上が前年同月比で50%以上減少した市内中小企業等（国の持続化給付金の給付が決定しているもの）に対する支援金で、申請者に増加にともない増額するものです。法人は40万円、個人事業主は20万円です。ただし持続化給付金の給付額が上限額（法人200万円、個人事業主100万円）未満の法人、個人事業主を除きます。

いずれの2つの事業ともに、今年度からスタートした事業の補填作として行うものです。

詳細の問い合わせは府中市産業振興課 商工係 電話：042-335-4142



府中市が65歳以上高齢者にインフルエンザ予防接種の自己負担分を無償に・・・令和2年12月議会補正予算案を計上

府中市は新型コロナ対策の補正予算のなかで、新型コロナウイルス感染症と、季節性インフルエンザの同時流行に備え、予防接種法に基づいて実施する65歳以上の高齢者などへのインフルエンザ予防接種の接種率向上、重症化の予防をはかるため、自己負担分の2500円を無償にする予算を計上しています。接種にかかる経費を市が負担します。



府中市議会議員 結城りょうのホームページでは毎日、府中市のことや市政、議会の動き、街の話題などについて情報を発信しています。ぜひご覧になってください。



結城りょう





府中市の水は安全か！？ 武蔵台浄水所から基準値を超えた有害物質を検出

府中市の住民から有害物質の血中濃度平均値が全国平均の2倍に・・・NPO団体が調査

10月29日付の東京新聞朝刊社会面で「府中市、武蔵台浄水所の水道水汚染が指摘された問題で、府中市の住民を対象にNPO法人が実施した血液検査で、発がん性や発育への懸念される有害化学物質の血中濃度の平均値が全国平均の2倍超だったことがわかった」と報じています。この調査はNPO団体（ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議）が行ったもの。有害物質とは「PFOOS」（ピーフォス）などの有機フッ素化合物のこと。記事では「指針値を超えた府中市武蔵台浄水所の配水区域内に5年以上居住する住民11人の血液を調べたところ、PFOSの平均値が血液1ミリリットル当たり18ナノグラムで、全国平均8・2ナノグラムの2倍を超えて検出された」と報じています。

NPO法人が東京都に多摩地区の住民に大規模な血中検査を提言

11月12日付東京新聞多摩版に水道水の汚染が指摘された府中市、国分寺市の両市の住民の血液検査で、「有害化学物質（PFOS,PFOA）の血中濃度が全国平均の1.5～2倍超だったとして、検査したNPO法人『ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議』が東京都に多摩地区住民に対する大規模な血液検査などを求める提言書を提出」と報じています。「都によると4～6月の調査で、水道水に使う府中武蔵台浄水所の原水から320ナノグラムを検出、いずれも別の浄水を混ぜて、基準以下の50ナノグラム以下に薄めて供給している」としています。

有害物質の汚染と住民生活への影響について、市に要望を提出、協議をしました

私は府中市の武蔵台浄水所の問題について市対し緊急要望書を提出し、

以下5点について市の担当者から見解がありました。

- ①市は「水道水における有機フッ素化合物PFOS,PFOAについて、人の健康の保護に関する物質ではあるが、直ちに水質保全目標である環境基準健康項目とはせず、引き続き知見の集積に努める必要がある」とのこと。
- ②現在、国の主張は「今年4月1日付で、国から水道水質に関する暫定目標値が設定され、現状においては安全性に問題はない」との見解。
- ③東京都は「国の暫定目標値の設定により以前に、PFOSなどに対応した浄水所の管理、運営などの地下水の調査などを実施しており、暫定目標値を超える飲用井戸の所有者に対しても、飲用を控えるなどの助言を行ってきた」。
- ④また今回のNPO団体の調査について都の見解は「今年4月の国の調査結果などを踏まえて、国とも連携しながらしっかりと取り組み、都民の健康と安全を守っていくために適切な対応に努めたい」。
- ⑤このような国や都の考えをうけ府中市は「東京都多摩環境事務所および多摩水道改革推進本部へ確認を行ったが、直ちに何らかの対応をする考えはない」とのことから、引き続き、情報の収集に努め、都の動向を注視するとのこと。

私からは「ことは市民が日常から飲用する水の問題であり、府中市は深刻にとらえる必要がある。現状は水道水の性質は安全であるという見解だが、国や都の対応待ちにならず、市独自の積極的な調査と対応が必要であり、原因究明などを強く要望する」と伝えました。この問題では市民の方からも声が複数寄せられており、私も国、都の動向、市を動かしていくために情報発信と行動を行っていきます。

府中市官製談合事件続報・・・議会と行政の「なれあい」関係を排し、緊張感ある議会と行政の關係に改革を

塚田被告の公判証言に見る行政側の議員に対する「卑屈」な姿勢を質すべきとき

10月29日付毎日新聞多摩版の報道によると、府中市の官製談合事件の公判で元市職員幹部の塚田被告は「16年度に入札が4回連続不調になり、『(入札の)不調をさけたかった』と語り、村木元市議から3度にわたり電話があり、価格を教えたとしている。塚田参事は『安易に教えたことは否めない』と謝罪した」とあります。さらに証言のなかで村木元市議に対し「与党議員であり、一般質問で追及を弱めて協力してくれる」、また白井元市議には「(教えないと)村木議員に教えたのにと文句を言われると思った」との供述調書を検察官が朗読したとのこと（朝日新聞多摩版より）。

この塚田被告の証言に見られる行政側の議員に対する「卑屈」な態度が、今回の事件との因果関係があるのではないかと考えます。

24年前の談合汚職事件（市職員と業者）の反省が生かされないまま今回の事件に

府中市では平成8年1月に発覚した市職員と業者との間の談合汚職事件の際に、再発防止の指針を策定しています。この指針のなかでは①業務チェック体制の確立、②職場環境の改善、③職員の資質向上、④管理監督者の管理、⑤服務規律の徹底などを定めていました。私はこの当時の再発防止策が条

例なり内規として職員と議員の間で徹底されていなかったことが、今回の官製談合事件の原因となっていると考えています。

そこで今度こそは、絶対にこのような事件を繰り返さないために、市議会では「議員倫理特別条例」の制定を議論していますが、私は同時に議会と行政が緊張感ある関係にするためにも、議会基本条例の検証と実行ある条例に改正することを主張しています。

西武多摩川線多磨駅の改良工事、年内の供用開始めざして工事も大詰めへ

西武多摩川線多磨駅の改良工事も完成めざして大詰めをむかえています。改良工事の完成について市の担当課に問い合わせたところ「供用開始日については12月中の年内には決定していますが、具体的に日にちがいつになるかは西武鉄道さんが工事の進捗状況を慎重に判断して決めるので、まだ供用開始日については発表できません」という返事でした。多磨駅の供用開始日が決定しだい、私のお知らせブログでもお伝えします。



結城りょうに 府中市政へのご意見、ご要望をお寄せください

ぜひ府中市に対する要望について、新型コロナウイルス感染拡大防止策でしに要望したい方、また市政全般の事柄について、ご要望のある方は、私の下記のメールアドレスに、お気軽にお寄せいただければと思います。こちらからメールで返信もさせていただきますので、よろしくお願いたします。メールアドレス yuki4551@ozzio.jp

電話の場合は、留守電にコメントを入れていただければありがたいです（電話にでれない場合もあり、後程こちらから掛けさせていただきます）。電話 090-4136-7642

住所 〒183-0004 府中市紅葉丘2-6-3 メイプルタウン吉野D202

また私、結城りょう はホームページのブログを毎日更新しておりますので、そちらもぜひご覧いただければ嬉しいです。「ホームページ検索→結城りょう」



府中市議会議員 結城りょう プロフィール

昭和45年（1970年）5月11日生、横浜市青葉区出身、大東文化大学法学部卒、労働組合事務局などの仕事を経て、2015年4月から府中市議会議員（現在、2期目）。所属する委員会は現在、厚生委員会、基地等跡地特別委員会、公契約関係競売入札妨害事件に係る再発防止対策特別委員会、府中市都市計画審議会委員。現在は無所属で一人会派「市民の風」に所属。